

「沖縄 21 世紀ビジョン(仮称)」  
( 素 案 )

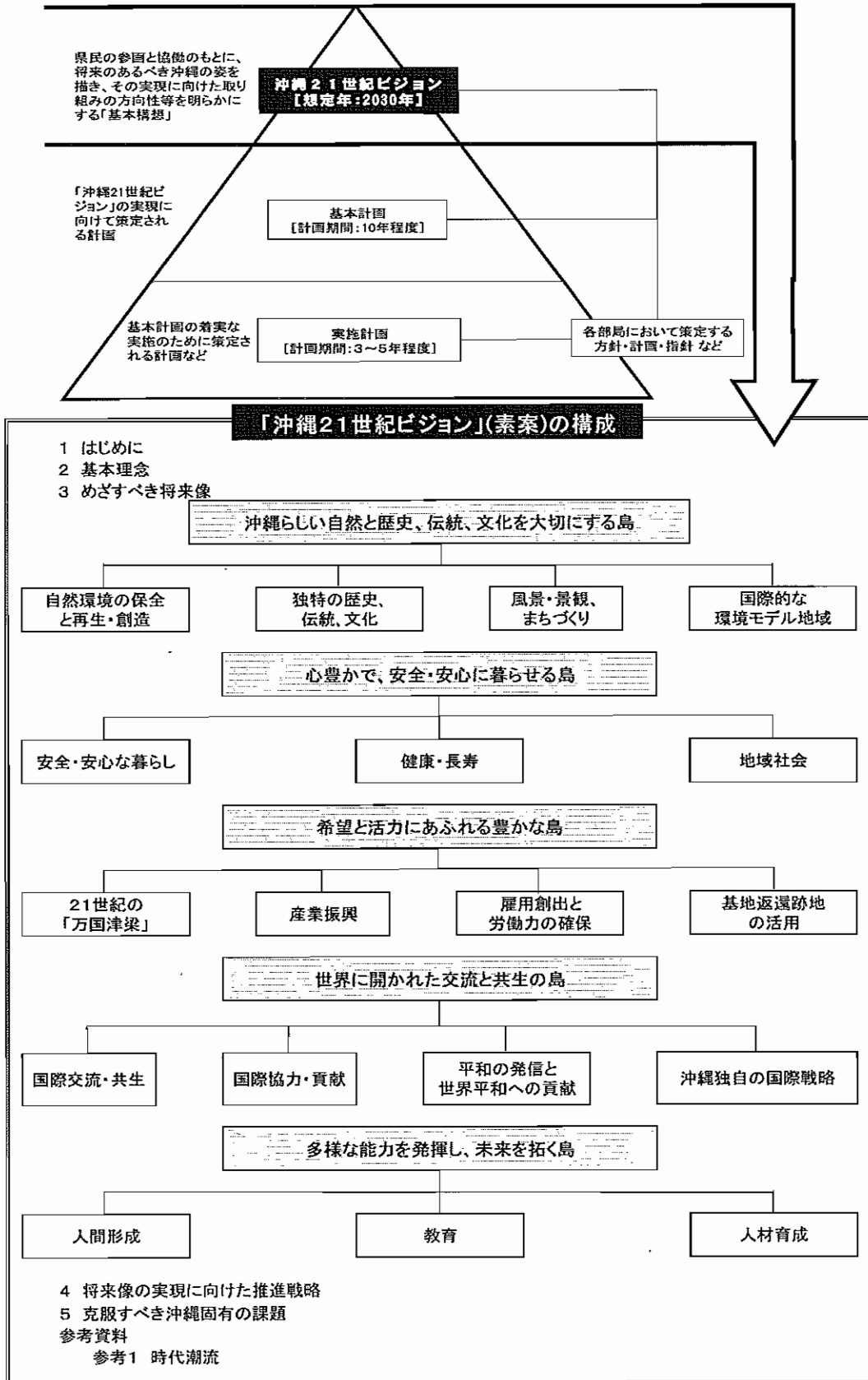
平成21年10月

沖 縄 県

## 目 次

1	はじめに .....	1
2	基本理念 .....	4
3	めざすべき将来像 .....	5
	(1) 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島 .....	5
	(2) 心豊かで、安全・安心に暮らせる島 .....	9
	(3) 希望と活力にあふれる豊かな島 .....	12
	(4) 世界に開かれた交流と共生の島 .....	16
	(5) 多様な能力を発揮し、未来を拓く島 .....	19
4	将来像の実現に向けた推進戦略 .....	22
	(1) 「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」 実現への推進戦略 .....	22
	(2) 「心豊かで、安全・安心に暮らせる島」実現への推進戦略 .....	25
	(3) 「希望と活力にあふれる豊かな島」実現への推進戦略 .....	27
	(4) 「世界に開かれた交流と共生の島」実現への推進戦略 .....	31
	(5) 「多様な能力を発揮し、未来を拓く島」実現への推進戦略 .....	33
5	克服すべき沖縄固有の課題 .....	35
	(1) 大規模な基地返還とそれに伴う県土の再編 .....	35
	(2) 重要性を増す離島の新たな展開 .....	39
	(3) 海洋島しょ圏 沖縄を結ぶ交通ネットワークの構築 .....	42
	(4) 地方分権と道州制の導入 .....	46
	【参考資料】 .....	48

# 「沖縄21世紀ビジョン」(素案)構成図



# 1 はじめに

## (1) 復帰 37 年を経た今日の沖縄

ここ沖縄は、中世時代の海洋国家「琉球王国」として、中国をはじめ日本や東南アジアなど海を隔てた遠くの国々との貿易・交流で固有の歴史・文化を築いてきた。

その後、島津の侵攻、廃藩置県を経て日本に包摂され、太平洋戦争後は米軍の施政権下に置かれ基地建設のための強権的な土地収用と多くの労働力が投入されていった。そして、27 年間に亘る米軍の統治後、1972 年に日本への復帰を果たし、現在に至っている。

沖縄の人口は、復帰時の約 97 万人から今日では 138 万人を超え、さらに今後 15 年間は引き続き増加することが見込まれている。我が国の人口減少が続く中、本県の人口増加は基本的には今後の経済発展の大きなポテンシャルとなる。

加えて、沖縄の自然、歴史、伝統文化等は、真の豊かな社会を創り出す力「ソフトパワー」として評価されつつある。

生活面においては、社会基盤の基礎となる道路、空港、港湾、ダムなどの整備は復帰時に比較すれば飛躍的に進み、県民の生活環境は大きく改善されてきた。

産業面においては、農林水産業や製造業は伸び悩んではいるものの、本県の持続的発展の基礎として地域社会に深く根ざし、住民の生活を支えてきた。

一方で、1974 年に開催された「沖縄国際海洋博覧会」を契機に、沖縄のポテンシャルを活かした観光関連産業が飛躍的に伸び、今日では本県のリーディング産業として大きく成長発展するとともに、近年の情報通信技術の急速な発展や本県の豊富な若年労働力等を背景に、情報通信関連産業が集積するなど、沖縄の特性を活かした新たな産業経済の展開を創り出しつつある。

また、発展の基礎となる科学技術面では、世界最高の水準の「沖縄科学技術大学院大学」の整備が進められ、開学まで間近となっている。今後の沖縄における科学技術教育のシンボルとして期待されるとともに、次世代型産業クラスターの核として内外から注目されている。

一方で、いまだ克服できない課題も残っている。

まず、復帰後 37 年を経た今なお在日米軍基地の大半が狭隘な沖縄、しかも人口が密集している県土の中枢部に集中している。県民の多くが「基地のない平和な島」を望む背景には、広大な米軍基地の存在により軍人・軍属による事件・事故の発生

をはじめ、日常的な航空機騒音等で苦しめられるなど、様々な制約を受けているという現実がある。

沖縄の基地問題は、我が国の安全保障のあり方の問題であり、安全保障の負担は、その公平性が図られなければならない。

雇用問題について、就業人口は復帰時の約 37 万人から今日では約 60 万人に大きく拡大してきたが、労働力人口の増加に見合う雇用の場の創出ができず、全国を大きく上回る完全失業率の改善は積年の課題となっている。また、一人当たり県民所得も現在のところ全国最低位に位置している。

離島・島しょ地域である本県にとって、割高な物流コストは、県民生活や産業振興の大きな課題になり続けており、特に離島の振興においては、大きなネックになっている。

また、新たな課題も浮かび上がってきた。美しい自然のビーチや景観が失われ、地域のつながりも薄れていると、多くの県民が感じている。人と人との結びつきが幸福の源泉であり、その回復の試みが模索されている。

しかしながら、このように克服すべき課題は残っているものの、沖縄はアジアへ近接し太平洋の諸国へと連なる地理的特性や文化的親和性、さらに、全国が人口減少に向かう中での人口増加など、大きな発展可能性を秘めており、交流と共生を通してアジアと世界につながり、我が国の国際貢献の一翼を担い、世界へ貢献し発展していく素地は整いつつある。

## (2) 沖縄を巡る情勢

さて、沖縄を巡る現在の情勢をみると、国際的には、冷戦構造が終結し、固定されていた枠組みが解き放たれ、グローバル経済の進展、インド、中国などアジア諸国の台頭、地球規模の環境問題などがクローズアップされている。

我が国においても、人口減少と急速な少子高齢化、経済成長力の鈍化、地方分権の進展など、容易に着地点を見いだせない課題が山積し、解決の道筋を自ら模索せざるを得ない混沌と変革の時代を迎えている。

## (3) ビジョン策定の意義

「沖縄 21 世紀ビジョン」には大きな二つの機能がある。まず「あるべき姿」「ありたい姿」を設定し、変動要因が多発し未来の測事が困難な激動の時代に対応できる。次

に、もし、本ビジョンの目標と現実のベクトルが異なる方向に移行するときは、引き戻すための、政策をとることができる意義がある。

不確実な要素が多い激動の時代においても、発展のためには未来を展望しなければならない。県民意見を基に、将来発芽する要素の埋め込み、現在及び将来の負の要素を排除するという事を通じて、沖縄のあるべき姿、ありたい姿を示す、いわば「北極星」のような、いつの時代にも道標となるビジョンを作らねばならない。

ここに記されたビジョンは、県民意見を集約したのみならず、委員が真摯な議論の上、必要不可欠な内容について心を込め、沖縄が子供たちの笑顔が常に絶えない、希望と優しさに満ちた豊かな社会であることを願って、万人に示したものである。これを進路とし、県民が力をあわせ航海していくことを発信するものである。そして、県や市町村等の行政運営において指針の役割を果たすものである。

#### (4) ビジョンの構成

この 21 世紀ビジョンの構成は、まず、「基本理念」において、ビジョンに込められた思いや、県民が共有する基本となる考えを説明する。次に「めざすべき将来像」において基本理念を踏まえ、県民が望む将来の姿を示すとともに、その実現に向けて「重視すべき要素」、「基本的課題」を整理する。次に、5つの目指すべき「将来像の実現に向けた推進戦略」で実現のための方策を整理する。さらに「克服すべき沖縄固有の課題」として、将来に向けた沖縄固有の課題を整理し、巻末参考として「時代潮流」において現状の大きな時代の趨勢を整理する。

## 2 基本理念

すべての先人の想いとともにより「イチャリバチョーデー」、ユイマール、平和を希求し生命を尊ぶ「沖縄の心」を受け継ぎ、また 21 世紀に求められる人間尊重と共生の精神を基に、歴史・伝統・文化・自然環境など沖縄固有の資産もしくは特性を活かした自立的発展と国際社会への貢献を図り、“時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合う平和で豊かな「美ら島」おきなわ”を創造する。

沖縄は特異な歴史を経てきた。琉球王朝が成立し、中国、日本、東南アジアをめぐる三角貿易により富を湛え「琉球の時代」を築いたものの、島津の侵攻により、王朝体制は空洞化した。廃藩置県により、日本に組み込まれ。今次大戦で甚大な被害を受け、アメリカの占領の下、ゼロからの再出発を余儀なくされた。戦後は米軍基地が設置され、沖縄の社会、経済を大きく規定した。復帰により、再び日本に包摂され、沖縄振興計画をはじめ幾多の政策が実施されてきたが、未だ自立経済を達成し得ていない。

沖縄の社会・経済の最も大きな問題点は、依存を余儀なくされたイニシアチブの欠如である。つまり、自らの足で自らの方向に歩くことができなかったのである。その帰結として多くの課題を抱えることになった。

しかし、沖縄には大きな可能性があることが認識されはじめた。人口増加の続く沖縄は潜在成長力が高く、沖縄の自然、歴史、文化には経済発展に転化し、真の豊かな社会を作り出す力、つまり「ソフトパワー」が存在する。さらにアジアのダイナミズムという時代潮流に乗り発展にビルト・インすることもできる。

今こそ、沖縄力であらゆる桎梏を断ち切り、時代を切り拓き、世界と交流し共生により発展する平和で豊かな「美ら島」おきなわを実現する時代が来た。時を超えて、いつまでも子供の笑顔が絶えない豊かな沖縄として、目指すべき将来像は

- (1) 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島
- (2) 心豊かで、安全・安心に暮らせる島
- (3) 希望と活力にあふれる豊かな島
- (4) 世界に開かれた交流と共生の島
- (5) 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

である。

これらは沖縄があるべき姿、ありたい姿であり、いつの時代においても燦然と輝く北極星(目標)である。